



## 研究部会報告

### ●対話型OR●

#### ●第12回

日時：昭和63年4月22日(金) 15:00～17:00 出席者：15名 場所：中国電力 テーマと講師：計量モデル開発の流れとその苦勞一開発各段階における問題点とを克服したときの喜び一松浦良紀(中国電力)

日本経済全体の姿を少ない変数で効率よく表わし、いくつかのシミュレーションを行なう目的で、モデルを開発した事例について、モデルの開発の流れの各ステップ(目的の選択・文献調査・経済理論の選択・データ収集と加工・定式化の検討・パラメータの推定・諸テスト・予測・予測値のチェック)ごとの問題点とそれをどう解決していったか、生々しく紹介された。

#### ●第13回

日時：昭和63年5月13日(金) 15:00～17:00 出席者：18名 場所：広島大学工学部 テーマと講師：話題の清書システム $T_E X$ について 海生直人(広島修道大学)

ワープロとは違って、文章・数式の記述の中に字の種類・大きさ・印字位置などを制御するコマンドを挿入して、組版の指示を与えて、これを文書作成システムにより、清書した出力を得るもので、プロのワープロといえる。実演しながら説明された。近い将来論文の投稿はこのようなシステムで、ということにもなる。

#### ●第14回

日時：昭和63年6月24日(金) 10:00～12:00 出席者：19名 場所：中国電力 テーマと講師：松田武彦先生を囲んで対話型ORをめぐる自由討議

主査から現在までの検討状況を紹介のあと、松田先生を中心にメンバーから活発に意見が述べられた。2, 3紹介すると、「モデルのパラメータを変えることはもとより、モデルの構造を変えることも大切」「経営者の理解できる範囲はスプレッドシートどまり」「機会損失を知ることがスタート」「LPモデルは視野が広がる」「経営者が情報システムから何を得られるのかは教育しないと判らない」など。

### ●システム・ダイナミックス●

#### ●第3回

日時：昭和63年7月22日(金) 18:00～20:00 出席者：17名 場所：明治大学駿河台校舎研究棟第三会議室  
テーマと講師：(1)「SDモデリング・システムの開発」岸 光男(大阪府立大学)

SD批判の1つにモデル作成のあいまいさがある。本研究はこの問題に対する1つのアプローチを提案するもので、モデル作成の基礎となる因果関係の抽出過程を一般化し、モデルに変換するための規則、手続、データ構造を規定し、これらをエキスパート・システムの概念によってSDモデリング支援システムとしてまとめたものである。小売在庫モデルでの実行例、海事産業モデルでの応用例が示され、今後の改良点について質疑がなされた。

(2)「Professional DYNAMOの仕様について」内野 明(横浜商科大学)

パソコン上で走らせる Professional DYNAMO のシステム構成、従来の DYNAMO との相違点を中心に、仕様についての詳細な報告がなされた。

#### ●第4回

日時：昭和63年8月19日(金) 17:45～20:15 出席者：14名 場所：明治大学駿河台校舎研究棟第三会議室  
テーマと講師：「経済の長期波動について」島田俊郎(明治大学)

経済の波動について周期を異にする4種の循環について考察の後、John D. Sterman, "The economic long wave: theory and evidence" (1986)の内容に入り、正のフィードバック・ループだけで波動が出てくるのは疑問で、本質的なネガティブ・ループがあるのではないか、シミュレーション結果が1800—1986で将来予測がないのはモデルが記述を目的としているからではないか、などの点が討議された。

TIMS XXIX について：大会プログラム担当京都大学長谷川利治教授よりSD研究部会に対し、1989年7月23日—26日大阪で開催される大会での研究発表要請がなされた。